



哲学思想 No.3

死生学

—— エピクロスとハイデガーが語る「死と向き合う」哲学


 **今日のゴール：**「死とは何か・死をどう受け止めるべきか」という問いを、エピクロス（死の恐怖の無効化）とハイデガー（死への先駆的決意）という2つの哲学的立場から論じる力を養う。終末期医療・安楽死・緩和ケアの倫理的根拠として死生学を活用できるようにする。

 **新課程対応版（2026年改訂）** | 生命・死の哲学的問いは新課程「倫理」「公共」で触れられます。本講座では終末期医療・ACP・緩和ケアと接続して医療倫理として実践的に完成させます。

 この授業の問い

1. 「死を恐れること」は合理的か？エピクロスはなぜ「否」と言うのか？
2. ハイデガーにとって「死を自覚すること」はなぜ人間を本来的にするのか？
3. 医師として「患者の死」にどう向き合うべきか、哲学は何を教えるか？

 衝撃体験：あなたは死を恐れますか？

 **導入の問い：**「あなたは死を恐れますか？」→ 多くの人が「はい」と答える。では「なぜ恐れるのか」を突き詰めると——死んだ後に苦しむ自分があるわけではない。「いなくなること」自体が怖い？それとも「死ぬ過程」が怖い？ 哲学はこの問いを2000年以上考えてきた。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 死生学・エピクロス・ハイデガーで合格
答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

死生学・エピクロス・ハイデガーでは、*死の哲学的考察の根拠*が答案の質を大きく左右します。

② 死生学・エピクロス・ハイデガーで採点者が見ているポイント

「エピクロスの死の恐怖不要論とハイデガーの死への先駆を対置した答案」が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所